

授 業 科 目 の 概 要

(山形大学大学院地域教育文化研究科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
臨床心理学	必修科目	臨床心理学特論A	心理援助は、さまざまな領域で、さまざまな対象に対して、さまざまなアプローチを選択しながら行われる営為である。しかしながら、そこには心理援助を行う上で共通して見られる現象や、押さえておかなければならないポイントがある。本講義では、そうした心理援助において臨床家が考えておかなければならない基本的な事柄や概念について、精神分析の初学者向けのテキストを用いて学習する。また、本講義で扱ってゆく各テーマと、受講生のこれまでの心理援助の体験とをディスカッションを通して結びあわせてゆく。	
		臨床心理学特論B	臨床心理学における基本的なパラダイムとして力動的、認知・行動論、人間学派をとりあげて、それぞれの文献事例を読んで面接の実際について学ぶ。また、臨床心理の専門家としての資質を高めるために、研修と訓練の積み方を学ぶ。また、高い倫理性を身につけるために、臨床心理業務と臨床心理研究における倫理事項について、架空事例を使った演習を取り入れながら学ぶ。その上で、コミュニティアプローチの観点から、地域への予防的アプローチと危機介入の方法について講義する。	
		臨床心理面接特論A	言語を中心とした個人面接の理論や技法について、講義および演習発表を組み合わせて行う。面接場面の応答構成、ロールプレイング、テープ分析を行い、面接の進め方および面接技法の習得・スキルアップを目指す。また、ロールプレイング後には、カンファレンス形式で検討を行うことでケースカンファレンスの持ち方のコツを体験的に学習する。これらの作法を踏まえた上で、現在の臨床現場でしばしば行われている電話相談や書記的方法(電子メール相談など)への応用についても学習する。	
		臨床心理面接特論B	精神療法成立の歴史を概括し、精神療法の構造と過程についての理解を深め、臨床家としての実践的な力量形成を目指す。精神療法の基本的な要素について文献に基づきながら概括し、治療構造等、精神療法の技法について討論する。その際、治療対象となる諸疾患について、視覚教材を導入しながら理解を深め、個別具体的な治療的アプローチの実際についての考察を進める。	
		臨床心理査定演習A	臨床心理における心理アセスメント場面について、グループ作業でロールプレイングを含めた演習を行う。具体的には、グループで架空の事例と心理アセスメント場面を設定し、来談予約からインテーク面接→アセスメント方法の選定→アセスメントの実施→フィードバックまでを演じることで、臨床場面における総合的なアセスメントについて学習する。なお、取り上げた検査について、グループで発表を行い、検査所見を作成する。	
		臨床心理査定演習B	心理臨床におけるアセスメントに必要な、基本的な知識と技法の習得を目指す。 心理臨床におけるアセスメントは、診断面接から治療の過程において、一貫して要求される。アセスメントを正確に行うことは、心理臨床家としての基本的技術であり、そうした技法を可能にする知識の習得は、多岐に渡っている。授業においては、アセスメントに対する基本的な理解を促しつつ、実際の症例に応じたアセスメントに関する知識の定着を目標とする。	
		臨床心理実習初級	心理臨床施設の機能や運営方法に関する見学実習を手始めに、心理査定法と心理面接法(プレイセラピーを含む)を中心とした心理臨床技法の初級実習を行う。 (④. 佐藤宏平 心理教育相談室業務の指導。観察や陪席を通して心理教育相談室での実習を行う。具体的には補助セラピスト体験と担当ケースのスーパービジョン、及びケースカンファレンスにおけるスーパービジョンを行う。年間約100時間) (6. 高橋国法 試行カウンセリングの体験学習の指導。ケースカンファレンス。年間50時間) (⑤. 奥野誠一 子どもに対する行動カウンセリングやプレイセラピーについての指導。観察や陪席を通じた心理教育相談室での実習。年間50時間)	共同方式

臨床心理学	必修科目	臨床心理実習上級	山形大学教職研究総合センター心理教育相談室、ならびに地域の医療、あるいは教育、福祉に関する地域の心理臨床施設において、心理臨床業務についての実習を行う。 (①. 宮崎 昭・⑤奥野誠一 山形大学教職研究総合センター心理教育相談室にて、発達障害等の心理臨床実習を集団あるいは個別に大学院生に指導する。また、外部関係機関の実習の事前事後指導を行う。年間100時間) (2. 上山眞知子 山形大学附属教職研究総合センター心理教育相談室にて、個別に大学院生に指導する。また、外部関係機関の実習の統括を行う。年間50時間。) (10. 伊藤洋子 山形大学附属教職研究総合センター心理教育相談室にて、精神科等に関連する心理臨床実習を個別に大学院生に指導する。年間100時間)	共同方式
	選択科目	心理学特別演習(統計)	心理統計を含んだ心理学の実証的研究のあり方を理解する。問題の発想からデータ処理、論文作成に至る心理学の実証的研究のあり方を、教育・心理統計で用いられる代表的な方法についての解説、実習をとおして学ぶ。具体的な本授業の目標は、以下の通りである。 (1)心理学の研究方法を理解できる。 (2)心理統計を用いて、心理学的研究に適用できる。 (3)統計ソフトを用いたデータ処理ができる。	
	心理学研究法特論	心理学における研究方法の実際について、高度なレベルの具体的な研究例を教材にして学習する。「観察法」「実験法」「調査法」「検査法」「ケース・スタディ」を用いた各研究方法について、日本を代表する研究誌に掲載された論文や臨床的実践に役立つと考えられる論文を具体的に取り上げて、学生による発表やそれをめぐる討論を中心にして授業を行う。また、心理学的研究を行う上での「倫理」について、基礎に置くべき欠かせることのできない問題として考察する。		
	心理学特別演習(実験)	心理学における実験について、講義および演習等を通して多面的に学習する。まず、尺度作成について、講義および文献講読を通して、項目の収集方法、項目分析、信頼性および妥当性の検討の方法等について学ぶ。次に、実験開発ソフトによるプログラム作成および観察法によるコミュニケーション分析について、実際に実験計画を立て、データ収集、データ処理、発表、討議を行うことで、それぞれの方法・技術の習得を目指すとともに、心理学の方法論として実験研究の計画を立てることができるところを目的とする。 (⑤. 奥野誠一 実験や調査の効果測定に必要な尺度作成の方法論について追究する。1-5回担当) (②. 畠山孝男 実験開発ソフトのプログラムに関して、講義・演習を行う。6-10回担当) (⑤. 佐藤宏平 コミュニケーション分析の方法について、実験・演習を通して多面的に学習する。11-15回担当)	共同方式	
	発達心理学特論	知的発達と人格的発達の道筋及び個人差が生じるメカニズムについて、養育や指導のあり方とも関連させながら論考する。前半では知的発達をめぐって、「知能とは」「認知の基礎的メカニズム」「知的発達と指導」「表象能力の発達と指導」の問題を、後半では人格的発達をめぐって、「人格的発達」「幼児期の発達と養育」「学童期の発達と指導」「青年期の発達と指導」の問題を取り上げる。特に、内面で起こる知的働きである表象や、周囲から与えられる価値意識の内面化に焦点を当てて、論考を進める。		
	学校心理学特論	学校心理学の概念とアプローチを理解するとともに、ストレス・モデルおよびオールビの予防等式の観点から、一次的・二次的援助サービスを活性化するためのカウンセリング理論と方法を学ぶ。二次的援助サービス事態における悪循環を理解し、それらのかかわりの整理の観点を学ぶ。また、一次的援助サービスにおいてはアドラー心理学の勇気づけについて理解する。		
	大脳生理学特論	臨床心理学分野に関わる諸問題を、主として、大脳生理学(神経科学、神経心理学等を含む)の観点から取り扱う。大脳生理学の基礎的知識を習得し、その知識を臨床心理学分野に活用できる運用力の獲得を目指す。近年、発展がめざましい脳科学と社会的要請の高まっている臨床心理学をつなぐような研究や脳科学に基づく臨床心理学研究を理解する思考法を獲得することを目的とする。		

臨床心理学	選択科目	行動心理学特論	臨床心理における一事例についての行動データの集め方ならびに一事例の科学的な研究の方法を学ぶ。内容としては、応用行動分析の行動に関する見方を理解し、データ収集の実際を演習を通じて学ぶ。また、事例データを科学的に分析できるように、一事例の実験計画の立て方について基本となるABABデザインならびにマルチベースラインデザインを学ぶ。その上で、模擬の一事例データについて、科学的な分析方法や分析結果の表現の仕方を学ぶ。	
		教育心理学特論	養育、教授・学習、指導等、あらゆる教育的営みの基礎に認知の働きが関わっていることについて、教育のあり方と関連させながら論考する。認知がスキーマを用いて外界と相互作用することによって成り立つことを基本として、ワーキングメモリによる制約、体験による認知の形成、動機づけの問題、自己教育力の育成、脳の発達と教育との関連、性差の問題等を取り上げ、考察と討論を行う。	
		家族心理学特論	本講義では、まず家族療法からブリーフセラピー、そしてナラティブセラピーに至る歴史について論じ、それらの歴史的展開の中でG. Batesonの二重拘束仮説や一般システム論、語用論、社会構築主義といった認識論が果たした役割について学習する。加えて、多世代派、コミュニケーション派、構造派といった第一世代の家族療法の諸学派、また1980年代以降の解決指向ブリーフセラピー、ナラティブ・モデル、協同言語システムアプローチ等の考え方について触れ、またロールプレイによって家族療法、ブリーフセラピーを体験的に学習する。さらに家族アセスメント等についても演習を行う。これらの講義と演習を通して、個人療法との差異を体感してもらうことが本講義の目的となる。	
		犯罪・矯正心理学特論	犯罪及び司法矯正に関わる臨床心理学的知識の学習する。臨床心理や学校教育の現場において、クライアントや学生生徒の様々な問題行動、特にご犯行為や触法行為に直面することが多い。それらの問題解決を模索していく上で必要な犯罪・非行に関する心理学的な基礎知識と矯正処遇に関して、現場において最低必要な法律の知識と社会システムを学ぶ。また、犯罪・非行についての具体的な内容を知ると共に、処遇システムに関する事項を学び、臨床心理学の立場からモデル事例の鑑定・鑑別を体験的に学ぶ。	
		精神医学特論	心理臨床の専門家として最低限必要な精神医学および精神医療についての知識を獲得する。精神科医の診断や治療の基本となる考え方を知り、精神障害の基本的な診断分類を覚え、精神科領域で用いられる薬物療法、精神療法、リハビリテーションについて理解を深める。内容としては、精神医学の歴史、診察と検査、治療方法とともに、成人、児童青年期、老年期の診断分類と治療の概要を講義する。	
		障害児心理学特論	発達障害児の心理臨床において必要な生活機能と問題行動のアセスメント、ならびに応用行動分析による対応方法を学び、それらを地域社会の中でどのように実践するかを学ぶ。内容としては、アセスメントとしてICFモデルの理解を図り、指導方法としては、応用行動分析による問題行動の理解と対処の基本を学ぶ。その上で、発達障害児と保護者に対するグループ指導の実際を経験する。さらに、障害児・者の地域援助について、特別支援教育に対する理解を含めて学ぶ。	
		心理療法特論	臨床における心理療法についての理解を深め、それを施行する上での視点を養うことを講義の目的とする。パーソン・センタード・セラピーを始め、芸術・表現療法、自律訓練法、フォーカシング、催眠療法、行動療法等について演習を通して体験的な学習を行う。受講者同士のディスカッションを織り交ぜながら、文献や体験的学習等を踏まえて心理療法の過程でセラピストとクライアントの内界に起きることについて熟考する機会を設け、倫理的な事柄も含めて心理療法をより適切に行うことができることを目指す。	
		投映法特論	精神科医療において使われることが多い、ロールシャッハ検査等の投映法の理論、実施法を学ぶ。内容としては、ロールシャッハ検査の理論、実施法、スコアリングの方法を学ぶ。また、ロールシャッハ検査以外の投映法(描画法やSCTなど)について知る。その上で、ロールシャッハ検査結果とその他の情報から、人格のアセスメントを行うことを学ぶ。	

臨床心理学	選択科目	学校臨床心理学特論	学校心理学の視点から三次的援助サービスの対象と領域を学校臨床心理学の対象領域として扱い、それらの諸症状の出現についてはストレス・モデルと家族システム論を援用して理解する。その上で、スクール・カウンセラーとして学校で行う臨床活動を、学校システムの変革という視点から具体的な事例についての検討を行う。他方、三次的援助サービスであるチーム援助を機能させるものとしてブリーフ・セラピーないしは解決志向アプローチについても学ぶ。チーム援助については数回のロールプレイを予定している。	
		学校カウンセリング演習	教師への適切なコンサルテーションができるスクール・カウンセラーをめざして、テキスト諸富祥彦著『学校現場で使えるカウンセリング・テクニック(上・下)』をもとに、学校現場で使えるカウンセリング理論と技法に関して、討議等の演習を通して理解を深める。演習は、事前に指定された数章の範囲を熟読して演習に望み、グループ討議(疑問点の提出と討議による理解の確認、著者の主張のまとめ、著者の主張に対する自分自身への適用、著者の主張への評価)を通して、さらなる理解を深められるように進める。	
		コミュニティ・アプローチ演習	コミュニティ心理学の特徴をシステム論の立場から学ぶとともに、予防、危機介入、コンサルテーションの介入方法について学ぶ。その上で、次の地域のニーズに応える地域支援プログラムの実際に参加して体験的に学ぶ。演習の場として、不登校・ひきこもりに対する地域支援プログラムの実際、発達障害児・者とその保護者に対する地域支援プログラムの実際、動作不自由児・者に対する地域支援プログラムの実際、精神障害者の精神科デイケア等の地域支援プログラムの実際、HIV感染者や犯罪被害者等への地域支援プログラムを用意している。	
	必修科目	課題研究 I 課題研究 II	臨床心理学に関する課題を選択して、研究計画を作成して、中間構想発表会を行い、研究の構想に関する指導を受けさせる。その上で、2年次にはさらに課題研究を深めて、修士論文として完成させ、論文発表会にて発表させるとともに、学位論文審査及び最終試験を行う。 (①. 宮崎 昭) 「臨床心理面接法、動作法、ソーシャルスキルトレーニング、スクールカウンセリング、発達障害に関する研究」について指導する。 (2. 上山真知子) 「神経心理学、発達臨床に関する研究」について指導する。 (②. 畠山孝男) 「発達心理学、イメージ心理学に関する研究」について指導する。 (③. 松崎 学) 「学校ストレス、学級づくり、生徒指導・教育相談、心理教育的援助サービスに関する研究」について指導する。 (④. 佐藤宏平) 「抑うつ・不登校・家族療法・ブリーフセラピーに関する研究」について指導する。 (⑤. 奥野誠一) 「カウンセリング、ストレス、ソーシャルサポートに関する研究」について指導する。	

授 業 科 目 の 概 要

(山形大学大学院地域教育文化研究科)

科目 区分	授業科目 の名称	講義等の内容	備 考
音楽芸術分野	生涯教育 特論	高齢化社会が加速度的に進展することが予測される中において、生涯学習社会の充実した構築が益々重要となっている。こうしたことを背景に、生涯教育の現代的な意義と役割について深く考察し理解するとともに、音楽文化・造形文化・スポーツ文化の各分野における具体的な事例を通して、生涯教育の現状と課題を把握し、今後の生涯教育の在り方について総合的に展望する。(共同担当、全15回/1~4回及び14・15回目は担当教員全員、5~13回は分担担当)	
	音楽活動 支援論	地域の音楽活動を活性化させ、これを支援するための取り組みを想定し、これを推進することのできるエキスパートを養成する。地域において音楽活動をする人材は多いが、その指導的な立場に立つことはもとより、音楽活動そのものを支援できる知識や能力を備えた人材は少ない。こうした、音楽文化を推進・支援するに足る知識・資質と指導力を身につけさせたい。また、音楽専攻外の院生にあっては、音楽表現の活動の実践を体験し、ここから得た一体感や音楽する喜びやこれに伴う技能を体得する。	
	伝統音楽論	日本の伝統音楽の流れを歴史的に概観し、日本の伝統音楽の流れを歴史的にとらえる能力を身につける。配付資料、および視聴覚教材などを用いながら、総説、古代の音楽文化、中世の音楽文化、近世の音楽文化近代の音楽文化、などの過程を経ながら理解と研究を深めてゆく。国立劇場編『日本音楽(歴史と理論)』日本芸術文化振興会刊1974を主なテキストとするが、これらを基に、日本音楽の研究のみならず、世界における日本の音楽状況を比較検討、研究する等、音楽学研究の方法を研究する。	
	文化コーディネ ート 実習(音楽)	山形交響楽団の事務局における事業の企画・運営の補助業務をつうじて、地域における音楽文化振興の意義を具体的に把握するとともに、地域における音楽文化活動の発展に寄与し得るコーディネートや、鑑賞者のニーズに応える得る演奏活動への企画・推進の能力を修得することをねらいとする。またこれらで得られたコーディネート能力を用い、山形大学附属校・園で企画・実践の実習を行い到達度を検証する。 時間数90時間(実習72時間、事前・中間・事後指導8時間、練習・アウトリーチ10時間) ①事前指導(2時間) ②山形交響楽団での実習(1日8時間として9日間) ③中間指導(2時間) ④演奏のための練習(4時間) ⑤山形大学附属学校・園におけるアウトリーチ(6時間) ⑥事後指導(4時間)	音楽芸術分野 全教員
	総合舞台 芸術実習 (オペラ)	本授業は総合舞台芸術実習(オペラ)で修得した技術の集大成として位置づけられる。授業で展開される様々な練習について、音楽演奏面においても演技面においても細部にわたって考察し、舞台上において、より説得力のある表現を可能にするための無駄のない動きを研究する。オペラは地域の文化芸術振興の一端を担ってきた。その現場の指導者となるためには、音楽演奏面はもとより企画・運営面からのアプローチを取り入れて実践的な活動を行う必要がある。そこで本授業では、1本のオペラ公演の経過を通して、音楽性、人間性、協調性、社会性を養成する。学部生のオペラ活動と連携し、指導的立場でのオペラ活動を行う。 (14. 藤野祐一/15回) 声楽・演出の知見から、主に歌手のトレーニング方法をオペラの実践的活動に関わり指導する。 (19. 渡辺修身/15回) 指揮の知見から、主にオーケストラのトレーニング方法をオペラの実践的活動に関わり指導する。	共同方式

音楽芸術分野	選択必修	音楽表現演習(声楽)A	授業は個人レッスンの形態をとる。学部で培った音楽的土台の上に更に専門的な内容を加味し、演奏家として必要な資質を身につける。音を介したコミュニケーションというテーマで演奏者と聴衆のあり方について研究指導を行う。大学院1年前期Aではセッコ・レチタティーヴォの演奏法を研究する。目標として①イタリア語でのレチターレ(演ずる)という感覚を養う②モーツァルトのオペラを題材として、セッコ・レチタティーヴォを高いレベルでの歌唱を研究する。	
		音楽表現演習(ピアノ)A	ピアノ実技専門レッスンを通して、学部で学んだことをより安定したものとし、ピアノ演奏者、教育者として必要とされるより専門的・高度な技術の習得を目指す。具体的には、多くの作品に取り組み、読譜力、読解力を深め、客観性のある演奏、指導ができるようになる。また学部で学んだことをさらに研究を進め、ピアノの演奏者、教育者として必要とされる、より専門的・高度な技術、音楽全般の知識を身につけ、音楽文化の担い手に相応しい教養を持つ。ピアノ演奏者、教育者としてより専門的・高度な技術の習得を目指す。	
		音楽表現演習(管弦打)A	これまでに習得した表現技能の上に、さらに高度で精緻な演奏内容の体現を目指す。そのために作品解釈の重要性を再考し実践することにより、構築性をより堅実なものとする。また、各々管弦打楽器のアイデンティティーを形成する特性、特色、効用といったものに対する深い洞察と共に、器楽文化の生成に見る楽器や演奏史、作品の背景等といった様々な事象について考究し、個々のオリジナリティを見据えた表現を自ら構築するためのノウハウを学ぶ。 (共同方式/全15回) (17. 河野芳春/全15回)バロック作品の演奏法について研究・指導を行う。 (20. 佐久間由美子/全15回)主にテレマン、J.S.バッハ、ヘンデル、ハイ든、モーツァルト等の作品を取り上げて実践的に指導する。	共同方式
		音楽表現演習(作曲)A	「音素材」「和声法」「対位法」「管弦楽法」の、時代、地域、民族、個々の作者による違い、変遷を引き続き学び、発想の糧とする。近現代の音楽技法、記譜法、楽器の特殊奏法、等、実際の作品を鑑賞、分析しながら、自己の語法を探求して行く。編成はこれまでの室内楽をふくめ、声楽、合唱、吹奏楽、管弦楽曲の実例を通しながら、その技法を学び、応用できるように研究を深める。楽譜に書かれた音符と、実際に演奏された音のギャップを埋めて行くことも、大切な作業である。そのためには頻りに自作の試演をおこない、これまでの発想や技法、より学ばなければならない事柄を確認し、研究を重ねて行く。また、ゲネラルバス(通奏低音)演習として、数字付き低音のリアリゼーションの実習も並行して行う。	
		音楽表現演習(声楽)B	授業は個人レッスンの形態をとる。学部で培った音楽的土台の上に更に専門的な内容を加味し、演奏家として必要な資質を身につける。Bにおいては、ドイツ歌曲(モーツァルト、シューベルト、シューマン、ブラームス、R.シュトラウス、H.ヴォルフ等)の作品を中心に、詩の解釈、ディクシオン、演奏表現技術を磨く。30分程度(2ステージ分)の自分に合った演奏プログラムを構築し、その演奏法を研究する。	
		音楽表現演習(ピアノ)B	ピアノ実技専門レッスンを通して、学部で学んだことをより安定したものとし、ピアノ演奏者、教育者として必要とされるより専門的・高度な技術の習得を目指す。具体的には、多くの作品に取り組み、読譜力、読解力を深め、客観性のある演奏、指導ができるようになる。ピアノ専門実技レッスンを通して、学部で学んだことをさらに研究を進め、ピアノの演奏者、教育者として必要とされる、より専門的・高度な技術、音楽全般の知識を身につけ、音楽文化の担い手に相応しい教養を持つ。	

音楽芸術分野	選択必修	音楽表現演習(管弦打)B	<p>音楽表現演習(管弦打)Aで培った表現技能をさらに発展させるべく、ここではより多彩で豊かな表現に即応し得る弾力的柔軟な応用技能を身につける。器楽文化の生成にまつわる様々な事象について引き続き考究しつつ、各々弦打楽器のアイデンティティーを存分に生かし、かつ表現に不可欠な独自性、独創性といったオリジナリティを底辺に据えた演奏内容のさらなる充実を図る。尚、演奏内容を充実させるための創意・工夫・解釈等について説明するための討論の場を設ける。</p> <p>(共同担当方式/全15回)</p> <p>(17. 河野芳春/全15回)主にシューベルト、メンデルスゾーン、ブラームス、ラヴェル、ショスタコーヴィッチ、ヒンデミット等の作品を取り上げ実践的に指導する。</p> <p>(22. 今村三明)/全15回)ロマン派、近現代等から打楽器のための作品の演奏法について研究・指導を行う。</p>	共同方式
		音楽表現演習(作曲)B	<p>学期の始めに、研究計画書を提出し、希望の研究対象を申請することが出来る。最終的には、それぞれの最も興味のある分野の作品制作を行える力を養成することが、この授業科目の目標である。オペラは、音楽の分野に留まらず、美術(大道具、小道具、舞台装置、衣裳、)演出、舞踊(コレオグラフィ)、台本をふくむ総合芸術であるが、これらを視野に入れて、研究、制作するのも選択肢の一つである。全幕にこだわらず、1幕のみであっても(完結しなくても)研究対象として構わない。また、ゲネラルバス(通奏低音)演習として、数字付き低音のリアリゼーションの実習も並行して行う。</p>	
	選択科目	室内楽演習(声乐)A	<p>室内合唱曲を仕上げていく過程を経験し、その方法について学習する。演奏形態は混声合唱を中心とし、教材としては主にルネサンス期の合唱作品を取り上げる。特に少人数のアンサンブルを経験することにより、無伴奏作品の唱法について理解を深める。最終的に高度なアンサンブル能力を身につけることを目標とする。</p> <p>(14. 藤野祐一/9回)</p> <p>アカペラのアンサンブル技術について研究・指導を行う。</p> <p>(19. 渡辺修身/8回)</p> <p>ルネサンス合唱作品の演奏法について研究・指導を行う。</p>	共同方式
		室内楽演習(器楽)A	<p>学部で培った表現技能を室内楽形態においてさらに高める。現在、世界的に最も広く認知されている演奏に触れ、音楽の伝達に相応しい独自の読解力を身につける。音楽の和において、互いが掛け替えのない存在として認め合い、その上で一致、調和、連携といった社会生活に不可欠な理念の開花を模索しつつ、さらに高度なアンサンブル技能を習得するための助言を行う。また各自が演奏表現を言葉により明快に説明し得るために、実技の合間に受講者同士の討論の場を設ける。</p> <p>(15 伊達華子/15回)</p> <p>ピアノ・デュオおよびピアノ三重奏曲などの研究を行う。</p> <p>(17. 河野芳春/15回)</p> <p>主に弦楽アンサンブルを中心に研究を行う。</p> <p>(19. 渡辺修身/15回)</p> <p>主に金管アンサンブル、木管アンサンブルについて研究を行う。</p>	共同方式

音楽芸術分野	選択科目	総合舞台芸術演習(オペラ)A	<p>授業で展開される様々な練習について、音楽演奏面においても演技面においても細部にわたって考察し、舞台上において、より説得力のある表現を可能にするための無駄のない動きを研究する。オペラは地域の文化芸術振興の一端を担ってきた。その現場の指導者となるためには、音楽演奏面はもとより企画・運営面からのアプローチを取り入れて実践的な活動を行う必要がある。そこで本授業では、1本のオペラ公演の経過を通して、音楽性、人間性、協調性、社会性を養成する。学部生のオペラ活動と連携し、指導的立場でのオペラ活動を行う</p> <p>(14. 藤野祐一/15回) 声楽・演出の知見から、主に歌手のトレーニング方法をオペラの実践的活動に関わり指導する。</p> <p>(19. 渡辺修身/15回) 指揮の知見から、主にオーケストラのトレーニング方法をオペラの実践的活動に関わり指導する。</p>	共同方式
		総合音楽学	<p>「世界音楽」のコンセプトおよび「ワールドミュージック」の語義を明らかにして、世界の諸民族の伝統音楽の現状と近年の変容を考える。世界音楽は他者の音楽ではなく、われわれ自身が主体的に体験する音楽であると、考える立場をとる。高尚な芸術音楽としての西洋音楽と、生活と密着した民俗音楽ないし東洋音楽、あるいは通俗的な娯楽としての大衆音楽といった因習的な図式から脱却して、世界音楽を人類の音楽史の中に位置づける試み。グローバル化と世界音楽、世界音楽と他者性、世界音楽の存在論、民俗音楽と大衆音楽とワールドミュージック、ナショナルミュージックと国歌、ディアスポラの音楽とコロニアル音楽、世界音楽の時代</p>	
		音楽振興支援論	<p>学部の授業「地域音楽活動実践論」における経験と、「音楽活動支援論」の履修により得た知識および実践的な力量をもとに、地域の音楽振興に寄与することのできるエキスパートを養成する。すなわち、地域の音楽文化活動の支援はもとより、こうした音楽活動を発掘し育て、演奏活動の企画、運営、機材の活用や録音等、これに付随する様々な知識を兼ね備えて活用できる能力と、組織的に協力できる豊かな人格と実行力を備えた人材を育成する。</p>	
		室内楽演習(声楽)B	<p>室内合唱曲を仕上げていく過程を経験し、その方法について学習する。演奏形態は混声合唱を中心とし、教材としては主に邦人作曲家の合唱作品を取り上げる。また、日本の伝統的な歌唱法と西洋の歌唱法との比較検討も行うことによって、歌唱法について理解を深める。特に少人数のアンサンブルを経験することにより、高度なアンサンブル能力を身につけることを目標とする。</p> <p>(14. 藤野祐一/9回) アカペラのアンサンブル技術について研究・指導を行う。</p> <p>(19. 渡辺修身/8回) 邦人の声楽アンサンブル作品の演奏法について研究・指導を行う。</p>	共同方式
		室内楽演習(器楽)B	<p>室内楽演習Aで培った表現技能を室内楽形態においてさらに高める。様々な編成によるアンサンブルを通して表現の多様性と柔軟な適応性を身につけた上で、独自の解釈を構築し確信をもって発表に臨む。室内楽が生み出す表現の繊細かつ多彩さに目覚め、その中で常に新鮮さを保ちつつ各パートが互いに必要とするコミュニケーションを図るための指導・助言を行う。また各自が演奏表現について言葉により明快に説明し得るように、実技の合間に受講者同士の討論の場を設ける。</p> <p>(15. 伊達華子/15回) ピアノ・デュオおよびピアノ三重奏曲などの研究を行う。</p> <p>(17. 河野芳春/15回) 主に弦楽アンサンブルを中心に研究を行う。</p> <p>(19. 渡辺修身/15回) 主に金管アンサンブル、木管アンサンブルについて研究を行う。</p>	共同方式

音楽芸術分野	選択科目	総合舞台芸術演習(オペラ)B	<p>総合舞台芸術演習(オペラ)Aに引き続き、授業で展開される様々な練習について、音楽演奏面においても演技面においても細部にわたって考察し、舞台上において、より説得力のある表現を可能にするための無駄のない動きを研究する。オペラは地域の文化芸術振興の一端を担ってきた。その現場の指導者となるためには、音楽演奏面はもとより企画・運営面からのアプローチを取り入れて実践的な活動を行う必要がある。そこで本授業では、1本のオペラ公演の経過を通して、音楽性、人間性、協調性、社会性を養成する。学部生のオペラ活動と連携し、指導的立場でのオペラ活動を行う。</p> <p>(14. 藤野祐一/15回) 声楽・演出の知見から、主に歌手のトレーニング方法をオペラの実践的活動に関わり指導する。</p> <p>(19. 渡辺修身/15回) 指揮の知見から、主にオーケストラのトレーニング方法をオペラの実践的活動に関わり指導する。</p>	共同方式
		日本伝統音楽文化演習A	<p>日本の伝統音楽文化である邦楽の中で、重要な役割を担う楽器として箏を選び、理論講義と実技演習を行い、地域における伝統音楽を理解、研究し、その振興を担うことのできる能力を養う。日本の伝統音楽である邦楽の中でも、特にそれぞれの地域において、幅広く愛好されてきた、箏曲の理論講義と実技演習を行う。地域の伝統音楽と和楽器に対する理解を深め、奏法を習得し、地域の伝統音楽を理解、研究していく。</p>	
		日本伝統音楽文化演習B	<p>日本の伝統音楽文化である邦楽の中で、重要な役割を担う楽器として三味線を選び、理論講義と実技演習を行い、地域における伝統音楽を更に理解、研究し、その振興を担うことのできる能力を養う。日本伝統音楽、邦楽の中でも、芸術音楽から民俗音楽まで最も多岐にわたり、またそれぞれの地域において、幅広く愛好されてきた三味線音楽についての理解を深めると共に、三曲(箏、三絃、尺八)における三味線(三弦)の奏法を試みる。また箏との合奏の仕組みを理解すると共に、地域に関連性のある作品を選び、その歴史を辿りながら合奏を試みる。</p>	
	必修科目	特別研究 I 特別研究 II	<p>(14. 藤野祐一) ドイツ歌曲、オペラアリア等の声楽作品についてその解釈及び演奏法について実践的に研究指導を行う。リサイタル開催の準備を行う。</p> <p>(15. 伊達華子) 公開演奏会(15分)に向けて選曲。演奏会の準備を行うと同時に、演奏に関わるテーマを設定した副論文の準備。</p> <p>(16. 長谷川 勉) 和声、対位法、楽式論、管弦楽法、音楽史などの理論と実習を踏まえて、楽曲分析、編曲、作曲の研究指導を行う。</p> <p>(17. 河野芳春) 各々オーケストラ楽器の活用につまわる様々な事象、また演奏内容とそれを裏付ける奏法、用法等との関連性等から課題を抽出し、それを論述するための研究指導を行う。</p> <p>(18. 鈴木 渉) 学校音楽教育における教材論、および指導論の優れた点をふまえ、これを広義の音楽教育活動にどのように活かすかを検討・追究する。</p> <p>(19. 渡辺修身) 指揮法、管弦楽曲、オペラ作品、管打楽器の演奏指導に関して、研究の実践と指導を行い、論文指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(山形大学大学院地域教育文化研究科)

科目 区分	授業科目の 名称	講義等の内容	備考
造形芸術分野	必修科目		
	生涯教育特論	高齢化社会が加速度的に進展することが予測される中において、生涯学習社会の充実した構築が益々重要となっている。こうしたことを背景に、生涯教育の現代的な意義と役割について深く考察し理解するとともに、音楽文化・造形文化・スポーツ文化の各分野における具体的な事例を通して、生涯教育の現状と課題を把握し、今後の生涯教育の在り方について総合的に展望する。(共同担当、全15回/1~4回及び14・15回目は担当教員全員、5~13回は分担担当)	
	絵画・版画表現演習	従来の制作方法、提示・流通のあり方を捉え直すことを目的とし、絵画及び版表現を中心とした高度な実践的技術や作品の提示・流通に関する専門的知識を得る。現代社会における芸術表現の変容を踏まえた上で、芸術と社会の関わり方の重要性を認識し、作品と鑑賞形態、提示方法を相互に意識した作品構想を前提に演習を行う。これらを通して芸術活動による社会への関わり方の基本精神を理解し、芸術における個人的「独自性」と社会的「普遍性」との関わりを実践的に探求する。	
	彫塑・立体表現演習	この授業では「自然から学ぶ」を軸に、人体モデルを置いての、塑造による原型制作から、石膏型取り、地場産業施設(工房)でのブロンズ鑄造までを実習する。造形の表現力を高め、石膏取り、鑄造の知識と技術を習得し、その魅力を体感することによって、彫刻を中心とする立体作品の社会的、芸術的意義を学習する。また、実践を通して地域社会への関心と理解を深め、その伝統文化を継承するための観察力、感性、創造力を磨き、豊かなこころを身につける。	
	デザイン方法論	デザイン概念の基本と本質を理解させるとともに、それをいかに広く社会の諸問題へと拡張していくかというデザイン方法論を講義する。またデザインの本質を考えるヒントとなる具体的なプロジェクトを折に触れて紹介し、デザイン領域の思考の広がり学ぶ。デザイン学を学ぶにあたって、デザインという概念をはじめからとらえ直す姿勢を学び、現在の社会および世界の諸問題をデザインの概念を通してとらえ直す糸口を示唆していく。	
	伝統文化論	地域文化の担い手となり、地域文化の活性化に貢献する人材となるためには豊かな伝統文化の存在にふれることが欠かせない。本講座では広範な伝統文化についての知識を獲得するとともにその実態にふれることを目的とする。また、伝統文化が失われた状況の寄り添いのなさ、不安感を指摘したうえで、どのような保存方法が可能かを考える。	
	アートマネジメント論	生涯学習社会の充実のために目下のところもっとも必要性が叫ばれているが、人材の育成が遅れている分野である。芸術文化施策はその大きな柱であるが、その割に広範囲の住民のニーズに対応できていないところがある。本講座では住民のニーズをくみ上げながら施策を編成してゆくために必要な能力の開発をめざす。	
文化コーディネート実習(造形)	山形美術館の事業(特別展・常設展の企画・運営)に参画し、契約から予算執行に至る事業全般のアシスタントを行う。また、利用者の価値構造に基づいたミュージアムの評価を行い、地域における芸術文化に対する市民のニーズや、それに基づく美術館の課題を明確にするとともに、上記の評価や課題調査を踏まえ、地域のニーズや特性をふまえた教育普及活動の企画運営を行う。		

造形芸術分野	選択科目	美学・芸術学特論	芸術と社会の関連を考察するために、第2次大戦後の芸術社会学から、最新の芸術社会史理論、受容理論までを追跡し、芸術学の基礎を理解させる。その上で、歴史学や社会学など他の学問分野から芸術にアプローチしたピーター・バークやブルデューの理論を批判とともに学習する。最後にそれを個別事例にどのように応用できるか、その問題点をどのように克服できるかを、歴史的に検証する。	
		デザイン表現演習	デザインの制作における要件とプロセスについて、地域産業(鋳物・成形合板家具など)を題材とした実制作を通して実践的に習得する。同時に、デザイン表現における各種要件(材料特性・生産技術・形状特性・機能性・環境対策・製造コスト等)の相関性について考察し、生産工程におけるマネジメント業務の範囲・内容・手法について理解を深めていく。	
		造形芸術教育特論	生涯学習社会における造形芸術教育の本質論を実践的に考究する。この講義では、学校教育における小学校の図画工作教育、中学校の美術教育や高等学校の芸術教科(美術)などを具体的な考察対象とする。そして、わが国における造形美術教育に関する理念及び方法論を生涯学習社会の視点と学校教育現場の視点から、現状と課題を踏まえて実践的に深く考察・研究する。	
		地域デザイン特論	少子高齢化社会が進展する中で創造的な地域づくりのための計画論および参加のデザイン手法について学ぶ。前半では地域デザインの基礎的な計画論として地域づくりの方法、町並み保全型まちづくり、参加による公共施設のデザインおよび管理・運営方法について説明できる能力を身につける。後半は参加のための手法として人・もの・コミュニケーションに視点をあて、地域づくりのためのデザインベースの発想を学ぶ。	
		美学・芸術学演習	「美学・芸術学概論」の理解を深めるために、最初の教回を偉大な現代の歴史学者ピーター・バーク著『時代の目撃者』の読解にあてる。各回の担当者が各章ごとに要約し、その問題点などを発表する。続いて、これらを踏まえて、各自が芸術と社会の関係につき、各章ごとのテーマに沿って、具体的なテーマを設定し、発表する。参加者は、発表内容を理解し、その問題点を指摘する。最後にレポートを2度提出する。1次レポートには、詳しいコメントを付すので各自はさらに理解を深め、表現を工夫し、完成して2次レポートを提出する。	
		平面造形演習	芸術活動と社会への関わり、作品と提示の基本理解を前提に、絵画及び版表現を中心とした造形的創造活動が積極的に社会に参加・参画する芸術文化活動を実践する。新しいコミュニティ形成のためのアートマネジメントの理念を認識し、地域社会のニーズや芸術を通じたコミュニケーションを図るためのプロジェクトを考案する。これらを通して生涯学習社会における芸術活動を行う意義と自発性=「主体」と共同体=「社会」の関わりを実践的に理解する。	
		立体造形演習	「文化の香りのする町づくり」が盛んに言われる昨今において、「文化」の「環境」への関わりは大変重要である。アートマネジメントのための基礎力を身につけるために、この授業では立体造形、特に彫刻を中心に、公共施設、民間施設などに実際に設置されたパブリックアートを見学、その状況を目で確認し、「アート」が「環境」に及ぼす影響について分析、研究すると共に、美術展の鑑賞や作品制作を通して、立体が持つ、3次元空間を体感しながら、その意義を学習する。	

造形芸術分野	選択科目	デザイン・プロジェクト演習	日常生活に潜むデザインプロジェクトに必要な情報、例えば人や物、事柄等をさまざまな角度から観察・調査・分析を行い、そこから見えてくるデザインの意味を再確認しながら、リ・デザインについて考察していく。さらにプレゼンテーションの技法を学びながら、プレゼンテーションの方法、プレゼンテーションという相互理解のためのデザインプロジェクトがいかにあるべきかを演習を通して体得していく。	
		芸術と文化政策	近代・現代芸術の展開と文化芸術政策との関わりについて講述する。造形芸術の歴史における文化芸術政策の与えた影響について、アメリカおよび近代日本における文化芸術政策の具体例をもとに、芸術学的観点から、また文化政策学的観点から考察し、造形芸術と文化政策の相互の関係について考察するとともに、芸術の社会性、政治性について理解を深めることを目的とする。	
		地域デザイン演習	地域参加のデザイン手法についてフィールドワークおよびプロジェクトへの参加を通して実践的に学ぶ。演習の前半では地域デザインに関する具体的な事例についてフィールドワークを行う。住民参加で実現した公共施設の見学、まちづくりの事例の現地踏査を行う。演習の後半では地域プロジェクトに参加することを通して地域デザインに関する実践的な能力を養う。	
		デザイン・マネジメント演習	デザインの制作におけるマネジメントの手法や要件について、地域産業を対象とした製品開発あるいは支援活動の運営を通して実践的に修得する。地域企業ならびに関連機関(行政、同業組合、NPO等)の協力を得て対象テーマを設定し、デザインのマネジメントにおける各種要件(現状調査・ニーズ分析・情報管理・組織運営・資金管理等)に対する理解を深めることを目的とし、同時に実施結果の客観的な評価方法や記録(報告書・カタログの編集等)の手法についても技術を高めていく。	
		地域産業開発演習	地域産業は第一次産業としての農林水産業や鉱業が基幹産業としてあるが、第二次産業としての工業を中心としながら、産業文化として今日に伝わっている技術とそれを支える生産者(職人・企業)の現状について、現場調査を中心に実践的に捉えていく。また、他の先進地域あるいは域内異業種等、複数の事例調査との比較・分析や、客観的評価の手法について理解し、新たな製品開発に向けた調査データの活用や、課題の提案方法に関する実践技能を高めていく。	
		地域伝統造形演習・鋳金	山形は日本が誇る造形芸術「鋳金」を育んできた数少ない、歴史ある地域の一つである。この授業では、テーマを「花器」に設定し、デッサン、原型造り、鋳型造り、合金、鋳造、仕上げ等、上級技術を実習するとともに、山形の気候、風土、「鋳金」の歴史を体感しながら、作品を制作、完成させる。	

造形芸術分野	必修科目	<p>(概要) 造形芸術分野に関する研究テーマに関して、以下のような教員の専門性を生かしながら、研究の実績、指導を行い、造形芸術に関する論文指導を行う。</p> <p>(24. 降旗 孝) 学校教育における造形美術教育を具体的な視点にして、本質を追求した教育理念や多様な題材研究や題材論、そして実践的な教育方法について深く考究することを目的と課題とし、研究指導する。</p> <p>(25. 和田直人) デザインの多様なジャンルと社会における意義を理解しながら応用的制作力を修得し、デザインの各領域を実践的かつ高度に研究することを目的に、研究指導する。</p> <p>(26. 佐藤慎也) 創造的な地域づくりのための計画論及び地域デザインの手法を主な研究の対象として、地域プロジェクトに実際に参加することなどを通して、実践的に研究指導する</p> <p>(27. 小林俊介) 近代・現代日本における展覧会の歴史について演習する。造形文化振興の推進者としての作家や評論家、研究者、学芸員、パトロンや行政の役割について理解を深める。(特別研究Ⅰ) 地域のニーズに基づいた展覧会の企画立案およびその具体化について演習する。地域の造形文化振興に寄与する具体的提案を伴う実践的研究を行うことを目的に研究指導する。(特別研究Ⅱ)</p> <p>(28. 八木 文子) 版表現を含めた絵画平面領域の表現者として、さらに高度な技術を習得する。次代に伝えるべき希少な伝統と技術を現代の表現に取り入れた演習を行うことを課題に研究指導する。</p> <p>(29. 齋藤 学) プロダクトデザインならびに伝統的工芸産業の領域を主な研究対象とし、産業の史的変遷・地域性・生産技術・材料特性・流通等の観点から今日的課題を発見し、改善策の提案を試みることを課題に研究指導する。(特別研究Ⅰ) プロダクトデザインならびに伝統的工芸産業の領域を主な研究対象とし、特別研究Ⅰの成果をもとにした具体的な製品開発(ソフト開発を含む)をおこない、実社会における検証を試みることを課題に研究指導する。(特別研究Ⅱ)</p>	
--------	------	--	--

授 業 科 目 の 概 要

(山形大学大学院地域教育文化研究科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
スポーツ科学分野	必修科目	生涯教育特論	高齢化社会が加速度的に進展することが予測される中において、生涯学習社会の充実した構築が益々重要となっている。こうしたことを背景に、生涯教育の現代的な意義と役割について深く考察し理解するとともに、音楽文化・造形文化・スポーツ文化の各分野における具体的な事例を通して、生涯教育の現状と課題を把握し、今後の生涯教育の在り方について総合的に展望する。(共同担当、全15回/1~4回及び14・15回目は担当教員全員、5~13回は分担担当)	
		現代スポーツ論	今日先進諸国では、1970年代以降、「競技スポーツ」「みんなのスポーツ」とに区分されている。前者は、トップレベルの競技者を育成することである。しかしここからは、アマとプロ、ドーピング、タレント発掘、政治やマスコミとスポーツの関係、人間にとって競技とは何か等の問題が発生している。後者は、工業化や都市化に伴う運動不足に起因する生活習慣病を予防するために運動を奨励することである。しかし、スポーツは多面的な側面をもつ文化であり、それを享受することによって、結果的に健康も増進される。ここでは、以上のような問題点を取り上げて、日本と外国とを比較しながら講義する。	
		生涯スポーツ学特論	本講義では、生涯スポーツに関する理論的・実践的なトピックスを選んで現代社会と生涯スポーツの関わりを社会学的視点から論ずる。現代世界と同様にスポーツの世界もグローバル化してきている。本講義では現代社会構造と生活構造の変化を踏まえて、多様化するスポーツの諸相について概説する。とくに、生涯スポーツの観点から、地域づくりとスポーツ、ニュースポーツと生涯スポーツ、総合型地域スポーツクラブ、環境問題とスポーツについて取り上げる。	
		スポーツ政策論	我が国のスポーツ政策の両輪である、総合型地域スポーツクラブの育成を核とする生涯スポーツ及びオリンピック競技大会等での成績向上を目指す国際競技力向上の経緯・特色等についての理解を深めるとともに、スポーツ先進諸国や後進国のスポーツ政策について比較検討させ課題を探らせる。また、中央教育審議会(スポーツ・青少年分科会)答申や地方自治体のスポーツ振興審議会答申等の理解をはじめ、スポーツ政策の形成過程、行政組織・体制や民間スポーツ団体の役割・機能等についての理解を深め、特に地域に密着したスポーツ政策や推進のためのコーディネート ^① の在り方等について講義・討論等を通して展望する。	
		伝統スポーツ論	現在、隆盛をみる多くのスポーツは、19世紀に入り、近代化されて広く世界にひろまったものである。しかし、少数ではあるが、古来から地域の風土や宗教の影響を受けて伝承されてきた伝統スポーツも、各地域や国でおこなわれている。本講義では、日本の伝統スポーツである武道に着目し、近世武道伝書や海外の論文を講読し、歴史や思想、技術観について理解を深める。	
		生涯スポーツマネジメント演習	本演習では、少子高齢化と生涯学習社会における生涯スポーツの諸問題について、文献並びにスポーツ行政、団体、施設などの実地指導を通じて検討する。演習の内容は現代の社会・生活構造の変化を踏まえて、生涯スポーツの観点から、社会構造とスポーツ参加の実態、地域社会における住民参加の生涯スポーツ計画づくり、総合型地域スポーツクラブの設立と運営の諸問題について取り上げる。	

スポーツ科学分野	必修科目	文化 コーディネート実習 (スポーツ)	スポーツ活動における運営・企画・管理等の総合的能力を高めるために、実際場面における調査・実習を実施する。指導者としての実践的能力向上のために、スポーツ施設や大会、イベントにおける管理・運営のあり方を調査し、さらに施設における体験実習や大会運営への参加を通して、スポーツ活動におけるコーディネート能力の向上を図る。	スポーツ科学分野 全教員
	選択科目	地域スポーツ 文化論	地域における多様なスポーツ文化を理解し、文化としてのスポーツの観点から今後のスポーツ文化のあり方を探るものである。すなわち、各国、地域における多様なスポーツ文化の歴史・特性について理解し、生涯スポーツに関わる指導者としてのスポーツ文化に対する考え方を構築していくものである。	
		生涯スポーツ 生理学	生涯スポーツ活動時における生体機能変化に着目し、最近の研究動向を踏まえ、研究テーマの設定に至れるように指導する。そして、生涯スポーツ活動時の種々の生体機能変化を知悉するとともに、研究活動を通じて真摯な態度で生体機能の変化を見つめる素直な心を養うことを目標とする。またその内容は、生涯スポーツ生理学研究方法、生涯スポーツ生理学のあゆみ、生涯スポーツ生理学の現在とその将来とする。	
		スポーツ メンタルマネ ジメント論	スポーツと心理学との関係について最近の知見を理解するとともに、スポーツパフォーマンスを向上させるための様々なメンタルマネジメントについて考究する。スポーツ科学としてのメンタルマネジメントに対する理解を深めるとともに、アスリートとしてまた生涯スポーツ活動の指導者として活用できることを目指すものである。	
		地域スポーツ 指導論	地域スポーツ指導論は、教育学的、心理学的、生理学的、社会学・倫理的、管理学的側面等多岐にわたる実際の課題を持つ研究領域である。地域におけるスポーツ指導の諸様相に関する文献や情報、実在する諸問題を対象に講述するとともに、パフォーマンス向上との関連から方法的視点から考察し、生涯スポーツ指導に寄与することをねらいとする。併せて、地域スポーツ指導の理解を深める。	
		スポーツ 工学論	スポーツ工学は、工学的な手法を用いてスポーツ活動中の身体内部の力や筋活動を探求する学問である。本講義は学部段階でのスポーツバイオメカニクス等の基礎を基盤にしてスポーツ工学のより専門的内容を理解し、実際にスポーツ工学的研究を行うための最新の方法について研究する。すなわち工学や生理学など学際的な知識体系を必要とするスポーツ工学の研究方法を理解しながら研究論文を詳読することにより、最新の研究に精通しながら、指導者としてのスポーツ工学に対する研究知識を深める。	
		健康 スポーツ論	スポーツ活動の基本である、運動、食生活、休養といった健康生活に関わる問題について取り扱う。また健康問題について、生活習慣病といったことについても考えるとともに、健康教育やヘルスプロモーションといったことについても理解を深める。	
		スポーツ 教育法 I	スポーツ教育の目標・内容とスポーツ政策との関連性や指導計画・学習指導過程、効果的な指導形態の在り方、指導と評価の一体化の意義等についての理解を深め、実際の授業を観察・分析・評価することを通じて実践的な力を身に付けさせる。また、学習指導要領における内容の変遷の理解を基に、生きる力や生涯スポーツにつながるスポーツ教育を展望し、生涯学習社会におけるスポーツ教育(「体育科教育」を含む)の意義と今後の在り方について講義する。	
スポーツ史 演習	スポーツの起源論と世界観、古代ギリシアのスポーツ(古代オリンピック、プラトンの体育論、ヒポクラテスの養生術:健康は栄養摂取と運動による消費との調和である。)、古代ローマの「スポーツ」(人間と野獣の死闘)、中世の騎士道、近代スポーツの発生と発展(近代オリンピック)、近代スポーツ批判論、日本におけるスポーツの発展、体育学(スポーツ科学)の確立に関する基本的な文献を講読しながら、スポーツの歴史的特徴を理解する。			

スポーツ科学分野	選択科目	生涯ヘルスプロモーション演習	生涯スポーツ社会における健康増進施策や方法に着目し、最近の研究動向を踏まえ、研究テーマの設定に至れるように指導する。生涯スポーツを実践する健康増進施策や方法を知悉するとともに、研究活動を通じて真摯な態度で健康増進施策や方法を見つめる態度を養うことを目標とする。またその内容は、生涯ヘルスプロモーション研究方法、生涯ヘルスプロモーションのあゆみと現在、さらに将来について考察する。	
		生涯スポーツボールゲーム論	ボールゲームは、生涯にわたって親しむことのできるスポーツ種目の一領域であり、ボールゲームに関わるスポーツ人口は、遙かに他スポーツのそれを凌ぐスポーツである。ゲームの基本理念によるボールゲームを分類し、分類したそれぞれのボールゲームの基本動作及び運動技術に関する内外の文献や資料を通して、討議するとともに、生涯スポーツに寄与するボールゲームの本質を見極める。	
		スポーツバイオメカニクス演習	スポーツバイオメカニクスは、身体運動を客観的な情報によって解析し記述する方法であり、実験器材やデータ処理方法には工学や解剖学などの学際的な知識が必要とされる。本講義では動作分析で主に用いられる高速度カメラ、圧力計及び筋電図計によるデータ取得方法と画像分析や波形処理ソフトの活用法を学び、客観的な身体データの扱い方と記述方法に精通することを授業目標とする	
		アウトドアスポーツ演習	アウトドアスポーツについての意義や方法について、学部段階での基礎的な実習や理論をもとに調査研究を実施しながら明らかにしていく。また地域における自然の中でのスポーツ活動を実施する際の指導上の問題や安全管理上の問題について考究していく。特に近年問題となっている自然とスポーツの共生、環境保護問題等についての考えを深めながら、学校教育における自然体験を通しての野外教育の意義等もふまえ生涯スポーツや地域スポーツの指導者としての専門的資質を高める内容とする。	
		スポーツ教育法Ⅱ	体育教材を実際に現場で指導する際に生じている問題を明らかにし、特に動きの指導等に焦点を当てながら問題点を明らかにしていく。ここでは、運動指導に際しての指導者と生徒の関わりや、生徒の動きを理解するための指導者の見方、考え方についておもに運動学的視点から運動指導法のあり方について考究する。	

スポーツ科学分野	必修科目	特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ	<p>(概要)</p> <p>スポーツ科学に関する各専門領域から関係するテーマを選択して、研究計画を作成し、中間発表をおこない、スポーツ科学研究の構想について方向性を見いだす。</p> <p>特別研究Ⅰを深めて、実験、測定・調査、文献研究などを実施し、そこから得られた結果をとりまとめ、修士論文として完成させる。さらに、修士論文発表会にて研究成果を発表するとともに、学位論文審査及び最終試験を受ける。</p> <p>(33. 鈴木 漠)</p> <p>スポーツ行政・政策に関わる社会学的手法を用いた研究をおこなう。さらにスポーツ教育に関わって、学校体育における課題や問題についての指導をおこなう。</p> <p>(㉑. 長井健二)</p> <p>運動学的手法を用いながら、アウトドアスポーツをはじめとするスポーツ種目の指導法等について研究指導をする。さらに、学校現場等における指導について運動学的立場から論文指導をする。</p> <p>(㉒. 大神訓章)</p> <p>スポーツコーチングに関わって、様々なボール系スポーツの指導法について研究する。特に、ゲーム分析等の手法を用いた指導のあり方について指導を行う。</p> <p>(36. 大貫義人)</p> <p>スポーツ活動と生体の問題について、おもにスポーツ生理学の手法を用いた研究指導をおこなう。また、ヘルスプロモーションに関わる立場からの論文指導を行う。</p> <p>(㉓. 竹田隆一)</p> <p>スポーツを文化論的立場からとらえ、日本古来の活動について研究する。特に日本における武道を中心に指導をおこなう。</p> <p>(38. 笹瀬雅史)</p> <p>生涯スポーツの観点から、地域づくりとスポーツ、ニュースポーツと生涯スポーツ、総合型地域スポーツクラブ、環境問題とスポーツについて実証的な調査研究について研究指導する。</p> <p>(39. 新井猛浩)</p> <p>スポーツ活動の基本である健康生活に関わる問題について、保健衛生学的な側面から研究指導をおこなう。</p> <p>(㉔. 角南駿介)</p> <p>スポーツ動作の解析について、工学理論、バイオメカニクス的手法を用いて研究指導する。</p>	
----------	------	----------------	---	--